

令和 6 年度第 1 回市民ボランティア講座

名寄市社会福祉協議会

〒096-0011 北海道名寄市西 1 条南 12 丁目 名寄市総合福祉センター内

助成事業の概要

実施目的：

本事業は、市民がボランティアに関する知識や想いを深め、ボランティア活動の活性化や新たな活動の創出を図ることを目的として、年間全 4 回に渡って開催する市民ボランティア講座の第 1 回目として、地域共生社会の実現に向けた福祉教育・ボランティア学習のあり方をテーマとして開催します。

また、児童生徒のボランティア活動への参加や地域との交流等の促進、また障がい当事者や福祉活動実践者との交流等をとおして障がいや福祉に関する理解啓発を目的としている児童生徒ボランティア活動普及実践事業において、市内学校の皆様との研修をとおして、本事業のより一層の充実を図り、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一助とすることを目的として開催します。

日程：令和 6 年 5 月 30 日(木) 15:30～17:00

場所：名寄市立大学 1 号館 2 階 121 教室

内容：

- ①実践報告「名寄市における学校での福祉教育の実践について」
報告者 名寄市社会福祉協議会 地域支援係
- ②講演「『共生』って何だろう？～ハンセン病問題から見る福祉教育の価値と子どもたちに向けた実践～」
講師 小林 洋司 氏（日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授）

事業の成果

本講座は、市内の町内会や民生委員児童委員、学校教員や学生等、地域福祉活動の実践者や学校における福祉教育の実践者、これからの福祉教育やボランティア活動を担う方々を対象に周知をしました。結果として、約 60 名と多くの方々にご参加いただきました。

特にご参加いただいた 60 名の内 12 名は学校教員であり、地域活動の推進や教員と社協の情報交換を目的として、年に 1 回教職員向けに開催する児童生徒ボランティア活動普及実践事業担当者研修会としても開催することで、市内全小中高等学校 12 校の内 10 校と多くの教員に講演をお聞きいただきました。また、会場を名寄市立大学としたことで、社会福祉を学ぶ学生の参加者は 24 名にも及び、多くの地域福祉活動の実践者や学校における福祉教育の実践者、これからの福祉教育やボランティア活動を担う若い世代にご参加いただくことができました。

名寄市以外にも近隣市町村からの参加もあり、名寄市内だけでなく広く地域住民へ共生社会の実現について考えて頂く機会となったと考えます。

講演の中では講師の小林先生より、ハンセン病の歴史から今もハンセン病療養所で暮らす人々の現在、共生社会が求められる中で多様性の尊重が言われているが、多様性の尊重とは違いを尊重することで難しいこと、共生とは生活空間を共有することであるとお話いただきました。

また、地域で福祉の文化を作り育んでいくこと、その上で子どもたちの経験や体験から得る行動を

尊重することの重要性について理解し、福祉教育を展開していくことが大切であるとお話いただきました。

こういったお話から共生や多様性の尊重についての理解を深めたことで、今後の福祉教育やボランティア活動の実践において、活動の質を更に高めていくことにつながると考えます。また、福祉教育やボランティア活動を実施するための具体的なビジョンが見え、地域や子どもたちに合った多様な福祉教育の展開が期待されます。

成果の広報・公表

本講座の開催については、地元新聞である名寄新聞において掲載されております。名寄新聞は名寄市、下川町、美深町をエリアに展開しており、掲載されたことで近隣市町村に広く周知されました。記事においては、本会より報告した「子どもの心を育む講演・交流事業」の実践や小林先生がお話されたハンセン病問題から考える共生社会の理念等についてご紹介いただきました。

また、本会ホームページ (<http://www.nayoro-shakyo.jp/>) や Facebook にて、本講座の開催について公表させていただき、インターネットや SNS を活用し広報を行いました。

さらに、今後展開される学校での福祉教育の実践の際には、随時本会ホームページや Facebook、社協が発行する広報誌等とおして周知をすることで、今回の講座で学んだ地域共生社会の意義や福祉教育の価値などについて地域住民に考えて頂く機会になると考えております。

今後も、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し地域福祉活動のより一層の充実を図り、多くの方々に広く周知していくことを目指します。

今後の展開

今後本会が実施する事業として、障がいのあるなしに関わらず誰もが支えあって暮らす社会を目指すことを目的として「ふれあい広場」や「市民ポッチャ交流大会」、「バリアフリーおもちゃ博」等の開催や、多分野多世代が集う地域活動拠点「ここほっと」の運営等、地域共生社会に向けた地域福祉活動を展開していきます。

また、本会では、ボランティアや福祉分野の活動者をはじめ、様々な分野で数多くの経験をされている実践者の講演や交流をとおして、子ども達の経験や心を育み、これからの学校や地域における子ども達の活動につなげ、将来の社会を担っていく子ども達の成長の一助とすることを目的として「子どもの心を育む講演・交流事業」を実施しており、名寄市内の小中高等学校を対象として積極的に福祉教育の授業が展開されています。

授業では主に総合的な学習の時間において障がい当事者による講話や交流、パラスポーツ体験等とおして、子どもたちに正しい障がい理解や誰もが共に支え合って生きる「共生」についての理解を深める学習を進めていくことを目的に 20～30 時間の授業を毎年後期に実施しています。

今回の講演を踏まえて、福祉教育の実践に向け教員の意識も高まっており、改めて教員と授業内容を検討し、子どもたちがより良い経験をし心を育むことができるような授業を展開できるように協議を行っていく予定です。